

コンテンツのねらい

令和2年6月、文部科学省初等中等教育局教育課程課から次のことが示されました。

新型コロナウイルス感染症対策に伴う児童生徒の「学びの保障」のための学習指導の基本的な考え方として、「感染症対策と子供たちの健やかな学びの保障の両立」⁽¹⁾の必要性が示されました。また、基本的な考え方の具体的な方策の一つとして、「やむを得ず臨時休業を行わなければならない場合であっても、学校が課す家庭学習と、教師によるきめ細かな指導・状況把握により、子供たちの学習の継続及び学校との関係の維持を徹底」⁽²⁾することが示されています。こうした考え方を踏まえ、学校現場に対し、効果的な学習保障のための学習指導方法の工夫が求められています。さらに、効果的な学習保障のための学習指導の考え方の明確化について、次のことが示されています。⁽³⁾

学校の授業における学習活動の重点化

……

→限られた授業時数の中で、学習指導要領に定める内容を効果的に指導

※定着が不十分な児童生徒には、別途個別に必要な措置を講じる

……

学習活動の重点化のイメージ【例】

- ・数学科において、学校における練習問題の取組を限定し、宿題の添削を充実させる

(1)(2)(3) 文部科学省 「『学びの保障』のための学習指導について」 令和2年6月

そこで、本研究では以上のことを踏まえ、教師と生徒が、学習指導要領が示す中学校数学で学ぶ内容を把握したり見通したりした上で、対策を講じたり学びを進めたりすることが大切であると考え、次の2つのコンテンツを作成しました。

・「数学を学ぼう」

数学を学ぶ意義や自分でできる学びについて示したシートです。

「数学を学ぼう」
～問題を発見し、数学を使って解決しよう！ 考えを豊かにする学びへ！～

中学校数学では

- 日常生活や社会において活用できる内容を学びます！
- 将来様々な専門分野の学習を深める上で基礎となる内容を学びます！
- 論理的思考力・直観力・説明し伝え合う力を身に付ける内容を学びます！

4つの領域で学びます

- 「数と式」の領域：数の範囲を拡張し、概念や計算の意味を理解します。また、文字を用いた式の意味を理解し、計算したり活用したりします。全領域の基礎となる。
- 「図形」の領域：平面や空間図形の性質を理解し、身の回りにあるものを「形」「大きさ」「位置関係」という観点で考察します。また、図形の性質や関係を捉え、論理的に考察したり表現したりします。
- 「関数」の領域
- 「資料の活用」の領域

・「学習内容シート」

学習指導要領を基に1年間で学ぶ内容をまとめて示したシートです。チェック機能もあります。

「学習内容シート」中学校第1学年

組 号 _____
名前 _____

学習した内容がどれくらい分かったか、習得はどの順番に為を付けたかをチェックしよう。
1…よく分かった
2…まあまあ分かった
3…まだ分かっていない
4…分かっていない

領域	中学校第1学年で学ぶ内容一覧	教科書の該当ページ	内容の理解度チェック
A 数と式	1年間の内容を確認したり単元ごとの内容を確認したりして、学習を進めよう。内容ごとに、教科書の問題や学習プリントなどに取り組んで、学習した内容がどれくらい分かったか確認してみよう。	～	1 2 3 4
B 図形		～	1 2 3 4
C 関数		～	1 2 3 4
D 資料の活用		～	1 2 3 4
A(1) 正の数と負の数	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な場面を通して正の数と負の数について理解し、その四則計算ができるようにするとともに、正の数と負の数を用以て表現し考察することができる。【用語・記号】自然数、符号、絶対値 正の数と負の数の必要性と意味を理解すること。 小学で学習した数の四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の意味を理解すること。 正の数と負の数の四則計算をすること。 具体的な場面で正の数と負の数を用以て表したり処理したりすること。 自然数を素数の積として表すこと。 	～	1 2 3 4

補助教材

コンテンツ使用に当たって

「数学を学ぼう」と該当学年の「学習内容シート」を生徒に配付し活用させることで、年間を通して生徒が以下のような自分でできる学びに取り組むことができるようにします。

- 数学を学ぶ意義を知り、1年間の学習内容や単元ごとの学習内容に見通しをもつ。
- 日々の家庭学習（予習・復習等）において、学習内容を決めて取り組む。
- 単元末や学期末に学習した内容が分かったかどうか確認し、内容理解の程度に応じてその後の学習を進める。
- テストへ向けて学習内容を確認したり、テスト実施後に理解度を把握したりして、その後の学習を進める。
- 身の回りの事象における問題を発見し、「数学」を使って解決し、このことをノートやレポートにまとめる。

※生徒の実態に応じて、コンテンツに出てくる言葉の意味について補足説明したり、教科書の該当ページや内容の理解度を判断する基準について示したりしてください。

※コンテンツを「授業開き」で活用し、生徒がふだんから自分で学ぶことができるようにしておくことをおすすめします。また、学校がやむを得ず臨時休業等になる場合には、授業における練習問題の取組を限定したり、家庭学習の内容を決めたりするなど、本コンテンツをお役立てください。